

英語科学習指導案

指導者 赤松 猛

日時 平成25年11月30日(土) 第3校時(13:15~14:05)

年組 中学校第2学年2組 計38名(男子17名, 女子21名)

場所 中学校第2学年2組教室

単元 道案内 ~さまざまな表現を用いて案内しよう~

(Speaking Plus 3 *NEW HORIZON English Course 2* 東京書籍)

単元について

New Horizon (以下 *NH*) では、基本的な内容を学習する Unit と Unit の間に、毎回 Speaking Plus, Writing Plus, Listening Plus などが配置されており、活動を通して総合的な英語表現力を養うことを意図して編纂されている。本題材は Speaking Plus であり、典型的な場面での英会話を練習することが主な目的である。登場人物のさくらが駅前で、外国人の男性に話しかけられるという設定となっており、男性はどのバスに乗れば市役所へ行けるのかを尋ね、さくらがバスの番号、降車する停留所、所要時間などを答える内容になっている。*NH1*~*3*では、いずれの教科書においても「道案内」の題材が Speaking Plus として取り上げられている。*NH1*で扱われる英語表現は、現在進行形・Pardon me? という聞き返し・Go down this street.や Turn left...といった命令文などである。また、欄外には、Go straight, and you can see it on your right. (命令文+and) や How can I get to the library?, Please tell me the way to the library.などの文法知識としてはやや難しい表現も提示されている。*NH2*では、場面が乗り物での行き方を尋ねる・教えるということで、Take Bus No. 3や Where should I get off?, How long does it take?などの表現が扱われている。*NH3*も列車での行き方を尋ねる・教えるという設定なので、Take the Nishi Line...や Which line should I take?, How many stops is ...?などの表現が扱われている。以上のように、*NH1*~*3*では「道案内」に関して英語表現が少しずつ難しくなっていくわけではなく、同じような表現が繰り返し登場することになる。一方、同一教科書内で見ると、例えば、*NH3*では、I know how to get tickets.という「疑問詞+不定詞」を扱った直後の Speaking Plus に Could you tell me how to get to ...?を配置するなどの工夫が見られる。*NH2*の本題材の中で文法的に取り上げる可能性のある英語表現は主に2つある。1つは助動詞 should であり、教科書では初出である。2つ前の Unit で助動詞 will, must, may, can, could, また、助動詞に準ずる表現として have to を学習しているので、その延長線上で助動詞 should の意味・用法を学習することができる。もう1つの項目は、直前の Unit で学習した think の後に節を続ける文構造である。さくらが目的地までの所要時間を問われて、I think it takes about ten minutes.と応答するのであるが、機能的には、応答内容に自信がなく、断定を避ける状況で使用されている。単純な意味や文構造を確認することに加え、使用状況や機能について学ぶ機会となりうる。

本学級は、個々の生徒と話をすれば明るい性格の生徒も多いのであるが、集団になると、互いに遠慮して発言などが活発に出てこない面をもっている。4月から本学級の授業を担当しているが、授業者から生徒への問いかけに対して、期待しているほどの十分な反応が返ってこないことも少なくない。本年4月、最初の授業で実施したアンケートによると、「英語の勉強が好きか」という質問に対して、約58%が肯定的に回答し、「英語の勉強をすれば普段の生活や社会に出て役立つと思うか」という質問に対しては約92%、「英語の勉強は大切だと思うか」という質問には100%が肯定的に回答している。しかし、「英語の授業がどの程度分かるか」という質問には、約63%が肯定的に回答し、「英語が得意だと思うか」という質問には、約18%の生徒しか肯定的に回答していない。英語は勉強しなければならないと感じて

いるが、なかなか思うように実力が身に付かず、自分に自信が持てないという生徒像が浮かび上がってくる。また、本年7月末に1学期の振り返りとして、英語の学習に関して、努力したこと・努力できなかったこと・得意なこと・苦手なことを自由に記述させた。言及が最も多かったのは「単語」についてであり、努力した生徒も努力できなかった生徒も、苦手意識をもっていることがわかった。同様に「聞くこと」と「書くこと」については、特に努力したり努力しなかったりしたわけではないが、苦手だと感じている生徒が多かった。一方、「話すこと」に関しては、比較的多くの生徒が努力したと回答しており、得意だと感じている生徒と苦手だと感じている生徒がほぼ同数いた。授業中の活動や定期考査の答案を見ても、英文を正確に書くことができない生徒が多く、コミュニケーションへの意欲は比較的高いが、正確な知識が不足しているために、不完全な英文を産出する状況が多く存在するのではないかと判断している。

本題材を指導するにあたっては、他者とコミュニケーションをとろうとする姿勢や英語を話そうとする意欲を大切にしながら、生徒たちに正確な知識を伝えて、適切に道案内ができるようにしていきたい。特に、助動詞に関して、状況や場面を踏まえ、英語表現を適切に選択し使用できるように指導する。助言の意味をもつ *should* が本題材で扱われるが、これまでに学習した *can, may, will, could, would* などの助動詞や道案内で多用される命令文も含めて、それぞれの助動詞や表現がどのような機能をもっているかを学習する機会を設け、適切な使用につなげていきたい。また、断定を避ける *I think...* については、文構造の観点ではなく、場面や状況からその働きに気付くように支援し、道案内に留まらず、実際のコミュニケーションにおいて、適切に使用できるように理解を深めたい。

指導目標

1. 間違いを恐れずに英語で話すようにさせる。
2. 助動詞などの英語表現を適切に選択し、英語で道案内ができるようにする。
3. さまざまな英語表現の機能を理解できるようにする。

指導計画

1. さまざまな助動詞、その意味と機能の理解 1時間
2. 道案内の場面①、助動詞の選択、断定を避ける表現 1時間（本時）
3. 道案内の場面②、助動詞などの英語表現の選択 1時間
4. ALT への道案内 1時間

本時の目標

他の助動詞と比較しながら、助動詞 *should* の機能を理解することができる。

「学びのつながり」の視点

基本表現の復唱をはじめとした基礎的アウトプット練習は、Ⅱ期前期（小5～6）からⅡ期後期（中1）を経て、Ⅲ期（中2～3）以降に至るまで、英語学習においては重要な位置を占めると考えている。発達段階に応じた語彙や文法事項を含む英文をスムーズに産出できるようにする機械的な訓練を指し、本題材においては、さまざまな助動詞の意味を理解し、産出できるようにする活動のことである。また、既習事項である言語に関する体系的知識と状況に応じて言語の機能を意識しながら適切に運用できる技能を結び付けることが「科学的概念」と「生活的概念」の「のぼりおり」であると考えられる。本題材においては、場面や状況から判断して適切な助動詞を選択して使用することや断定を避ける *I think ...* を適

切に使用することができることである。

学習の展開

学習活動と内容	指導上の留意点（◆評価）
<p>1. Greetings（2分）</p> <p>2. Warm-up（8分）</p> <p><input type="checkbox"/> Vocabulary building</p> <ul style="list-style-type: none">・語彙を増やすとともに、音読することにより、文字と音のつながりを意識する。 <p><input type="checkbox"/> Reading aloud</p> <ul style="list-style-type: none">・音の連結や変化、弱音などに注意しながら、音読する。 <p>3. Review（10分）</p> <p><input type="checkbox"/> Repetition drill</p> <ul style="list-style-type: none">・さまざまな助動詞が用いられた英文を復唱する。 <p><input type="checkbox"/> Translation drill</p> <ul style="list-style-type: none">・日本語を聞いて、それを英語で表現する。・助動詞の意味を再確認する。 <p>4. Textbook（20分）</p> <p><input type="checkbox"/> Words & phrases</p> <ul style="list-style-type: none">・新出単語の発音や意味を確認する。・道案内に必要な表現を確認する。 <p><input type="checkbox"/> 本文の提示</p> <ul style="list-style-type: none">・数箇所の空欄を含む対話文および解答の選択肢を提示し、空欄に入る英文を考えさせる。	<p>○生徒の認識の程度に応じて、文字と音の関係を規則として明示的に提示する。</p> <p>○生徒が適切に音読できていない箇所を指摘し、重点的に反復させる。</p> <p>○生徒が適切に復唱できない英文については、句ごとに分割し、重点的に練習させる</p> <p>○速く反応できるようになるまで練習させる。</p> <p>○語レベルで確認しても、活用できないものについては、句または文レベルで練習させる。</p> <p>○文法的にはどの選択肢も入る可能性があるもので、それぞれの助動詞の意味を比較させながら、最も適当なものを選択させる。</p> <p>◆他の助動詞と比較しながら、助動詞 should の機能を理解することができる。</p> <p>【言語・文化に関する知識・理解】</p>

□内容理解

・さくらの“**It’s over there.**”は、どのような意味か。

＜バス乗り場が向こうにある。＞

・さくらが“**Oh...I think it takes about ten minutes.**”と言ったときの気持ちはどのようなものか。

＜所要時間が約10分であることに自信がもてない。＞

□音読練習

・役割に分かれて、音読する。

5. Drill (8分)

□発展的産出活動

6. Consolidation (2分)

○場面を想像させることにより、何を伝えようとしているかを理解させる。

○**I think** が付いていない文と比較させながら、機能に目を向けさせる。

○道案内であることを意識させ、どの情報を正確に伝えなければならないかを共有させる。

○状況に応じた表現を選択できているか意識させる。